



# 下末吉だより

令和5年4月7日

4月号

横浜市立下末吉小学校



## 下小71周年 未来に繋ごう 下小のバトン！

校長 江口 和良

お子さまのご入学、ご進級おめでとうございます。

3月17日は令和4年度の卒業式でした。この日を待ちわびたかのようにほころび始めた校庭のソメイヨシノに見送られ、6年生が立派に本校を巣立っていきました。ここで、手前味噌ですが、私が卒業式で6年生にお話した一部を紹介させていただきます。

下末吉小学校は創立70周年の今年度(令和4年度)は、「未来に繋ごう下小のバトン」を合言葉に、様々なイベントがありました。そして、それぞれの活動で、いつも6年生がリーダーシップを発揮して活躍していました。

夏に久しぶりに開催した納涼盆踊り、10月末の70周年大運動会、11月末の創立70周年をお祝いする「下小70thアニバーサリー」に、1月に地域やPTAの皆様も巻き込んで開催した「ウィンタースペシャルイベント」など、どれをとっても完成度の高いイベントを実現させた6年生の企画力と実行力には、心から感心しました。おかげで、創立70周年の今年度は私たち教職員にとっても、充実した思い出深い1年になりました。

そんな6年生の活躍を見ながら、私はいつも、「子どもでもこんなことができるんだ」と思っていました。そして、私は「**先入観は可能を不可能にする**」という言葉思い出しました。この言葉は、先日のWBCでも大活躍した大谷翔平選手の母校・花巻東高校の恩師である佐々木監督から教わって、大谷選手が今でも大切にしている言葉だそうです。

「先入観」を辞書で調べたら「実際に見聞きする前に、すでにできあがっている思い込み」と書かれていました。つまり「どうせ無理だよ」とか「やっても無駄」と、やる前から決めてしまうと、本当はできたかもしれない事も実現しないままになってしまう、ということです。

もし、高校生だった大谷選手がプロ野球選手としてピッチャーとバッターの二刀流になることは不可能だと決めつけていたら、そしてもし、アメリカの多くのメディアが「大谷選手の二刀流はアメリカでは通用しない」と騒いだからといって、そこで挑戦をやめてしまったら、大谷選手のアメリカ・メジャーリーグでの大活躍は実現しなかったでしょう。

それと同じように、ここにいる6年生のみなさんが、「どうせ自分達にはできないよ」とか「コロナ禍だから、無理だよ」と最初からあきらめてしまったら、下小創立70周年のこの1年間はみなさんにとって、もっともっとつまらなくて味気ないものになっていたと思うのです。

さて、春休み中に満開となったソメイヨシノに代わり、正門の先のヤエザクラが4月7日に登校する子ども達をお迎えするように咲き始めました。今日から、いよいよ下末吉小学校の新しい1年が始まります。期待と不安が入り混じった気持ちの子もいると思いますが、「先入観」はそこそこにして、「やってみよう」「できた」「みんなとやると嬉しい」「次が楽しみ」という笑顔でいっぱいの下末吉小学校を、みんなでつくっていきましょう。

地域のみなさま、保護者のみなさま、引き続き子ども達のために、これまでと変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞ よろしく願いいたします。

### 〈「特別短縮時程」の試行について〉

本日「教職員の働き方改革の取組みへのご理解・ご協力をお願い(児童生徒の一人ひとりを大切にしたい教育活動の充実に向けて)」を配布しました。その中で【取組例】としてお伝えした「年間の授業時数を確保した上で、日々の時間割や年間予定の工夫」について、本校でも地域訪問や個人面談の際に、授業時間を通常の45分から40分に短縮して、午前中に5時間授業を実施する「特別短縮時程」を試験的に実施する予定です。